

# 廃バッテリー3年ぶり安値

## 市中価格、70円台前半に続落

### 買い気一服し需給緩和

廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）の市中取引価格が続落している。キロ100円台に達していた昨夏までと比べて、現在は約30%安の70円台前半まで下がっており、約3年ぶりの安値。韓国二次精錬筋の買い気が一服したこと、一部の国内一次製錬メーカーの買い控えも加わって需給は緩和したが、下げ幅が拡大すれば再び輸出が増える可能性もありそうだ。

大手輸出業者への持ち込み価格は現在キロ70～75円どころと、年初からは3～5円値下がりしているもようだが、2012年末以来の低さ。足元のロンドン金属取引所（LME）相場は1カ月ぶりに1700ドル後半まで急反発し、国内建値も1日付でトン26万円台に戻したが、廃バッテリー価格に反発の気配は見られない。

鉛リサイクル原料の廃バッテリーは11年ごろから、設備増強を繰り返した韓国二次精錬メーカーの高値買いによって輸出が盛んになり、日本国内の一次製錬・二次精錬メーカーとの集荷競争も激化して市中価格は高騰。昨年前半に付けたキロ100円強を鉛重量比に換算すると200円近くにになり、輸入採算価格にはほぼ匹敵するレベルで、これを主原料とする二次精錬メーカーは加工賃が捻出できない状態だった。



値下がりした廃バッテリー

しかし、韓国が日本の高値バッテリーを敬遠するようになった（市場関係者）こともあり、昨年10月に韓国向け輸出がピーク時の3分の1以下の3000ト未満まで減少。韓国を占う上でのポイントになりそうだ。

ある二次精錬メーカー関係者は、「60円台では韓国がまた高値で買いたすかもしれないが、これ以上廃バッテリーが下がるのは怖い気もする」と（二次精錬メーカー）と、原料調達難の解消を歓迎する一方で、採算ラインに合致した現価格帯で下げ止まりを願う声もある。目先の下値が、今年の廃バッテリー国内事情を占う上でのポイントになりそうだ。

バッテリー輸入が高水準で安定したことや、韓国向けの輸出スクラップの放射線検査が厳格化されたことも背景にあり、さらには国内一次製錬メーカーが今シーズン、冬季操業に備えた原料在庫積み増しを控えたこともあって、市況は次第に軟化した。